

科目名称:	保育内容「言葉」の指導法Ⅱ	
担当者名:	石野 友子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達過程を理解し、領域「言葉」に関わる保育を構想することができる。 ・「昔話や民話・児童文学」「絵本」「伝承遊び」について幼児を取り巻く「児童文化」の概要が理解できる。 		
授業の達成目標・到達目標		
<p>幼児の心身の発達に深くかかわっている領域「言葉」について理解し、豊かな感性を育むための指導法とは何かを考えていく。実際に絵本や物語・昔話などに親しみながら、幼児期の「遊びの中からの学び」の大切さを感じとり、保育者自身に不可欠な実践的、応用的な表現力を身につける。</p>		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)					0
全学DP(3)	50		20	30	
					0

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 幼稚園教諭	《経験年数1》 22年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
領域「言葉」についての知識と理解	よく理解できており、講義で得た知識を組み合わせ思考できる	講義で得た知識を組み合わせ、自分なりに考えることができる	領域「言葉」についておおよそ理解している	領域「言葉」について、理解度が低く、知識が得られていない
「言葉の指導法」についての理解と実践力	積極的に表現し、保育実践につなげることができる	積極的に表現し、保育実践を想定することができる	自分なりに表現し、言葉遊びの意義を理解し伝えることができる	表現することに消極的で、保育を想定することができていない
学びへの積極性	自発的に質問や意見を発すると共に、他者の意見を尊重している	自分なりに問題意識を持ち、質問や意見を発することができる	自分なりに問題意識を持ち、意見を記述することができる	講義への参加意欲や、他者に対する理解が見られない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 子どもの言葉の発達過程～ことば遊びと思考力～	自分の子どもの頃の遊びを思い出し、グループで討論できるようにしておく	30分
第2回 子どもの言葉と感性～着ぐるみ体験～(ICTの活用)	教科書117-120pを読み、人形劇について調べておく	30分
第3回 子どもの言葉を育む環境～パネルシアターを楽しむ～	自作のパネルシアターについて、研究し、実演、発表できるようにしておく	30分
第4回 子どもの文化財の歴史的背景① ～日本の昔話～(グループワーク)	教科書114pを読み、日本の昔話を調べ、小レポートにまとめる	30分
第5回 子どもの文化財の歴史的背景② ～世界の昔話・児童文学～(グループワーク)	世界の昔話やイソップ、グリム童話などを調べ、発表できるようにまとめておく	30分
第6回 子どもの文化財の役割と活用法① ～意欲と科学的な思考を育てる～(ICTの活用)	教科書53-84pを参考に、幼児の科学的思考と言葉のかかわりについて、考えておく	30分
第7回 子どもの文化財の役割と活用法② ～絵本と子どもの発達～	教科書121-130pを読み、絵本の役割について考え、小レポートにまとめる	30分
第8回 発達に応じた絵本の選び方 ～発達と絵本の関係～	121-130pを読み、各自の推薦する絵本を一冊持参する	30分
第9回 絵本を用いた保育の実践 ～保育と絵本をつなげる～(ICTの活用)	保育指導案を作成し、実習で読みたい絵本、教材を準備しておく。	60分
第10回 子どもの遊びと生活① ～伝承遊びの意義と体験～	集団での伝承遊びについて聞き取り調査をし、記述しておく	30分
第11回 子どもの遊びと生活② ～季節の行事、玩具～	日本の四季に関連した文化の考察を行い、体験を発表できるようにしておく	30分
第12回 言葉を活用した遊びの実践① ～「ごっこ遊び」と子ども～ グループワーク	教科書85-92pを読み、自分の体験を伝えられるよう準備しておく	30分
第13回 言葉を活用した遊びの実践② ～「ごっこ遊び」の計画～ グループワーク	グループ毎に発表ができるように、計画・準備を進める	45分
第14回 言葉を活用した遊びの実践③ ～感性と表現力～ グループワーク	グループ毎に発表ができるように、計画・準備を進める	45分
第15回 学習のまとめ～言葉の表現の実践～ グループワーク	グループ毎に発表ができるように、練習しておく	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、50%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。

提出物(20%)、授業・発表・グループワークへの積極的関与(30%)

課題に対するフィードバック

個人課題(授業内レポート・指導案等)は、評価後に返却する。
グループ課題は、発表に対するコメントをフィードバックとする。

教科書・参考書

テキスト 「コンパス 保育内容 言葉」(内藤知美 新井美保子 編著、建帛社) テキストは授業や事前事後学習で使用する
参考書 「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
「絵本から学ぶ子どもの文化」(浅木尚実編著、同文書院)
参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。